

癒しの伝統文化 布橋灌頂会
 (ぬのぼしかんじょうえ) (立山)

「富山署 神々しい霊山・立山は、江戸時代、山中に地獄と浄土があり、あの世の世界」と考えられていました。男性はあの世である立山に立ち入ることで擬似的に死者となり地獄の責め苦に見立てられた厳しい禪定登山を行うことで罪や穢れを滅ぼし下山します。こうして新たな人格・生命を再生し、現世の安穏や死後の浄土往生が約束されたいわれています。

しかし、当時の立山は女人禁制の場所でした。そこで、立山の入口にある立山町芦峯寺(あしくらじ)では、男性の禪定登山と同義の儀礼として、女人救済のために閻魔堂・布橋において、女性の浄土往生を願って「布橋灌頂会」の法会が行われるようになりました。

この法会に参集した女性参詣者は、閻魔堂で懺悔の儀式を受けたあと、この世とあの世をつなぐ朱塗りの布橋を白装束に目隠しをした姿で僧侶に導かれながら白い布の上を渡り、「死後の世界」に赴きます。布橋を渡ると、立山山中に見立てられたうば堂(現在の遙望館)の中に導かれ、そこで目隠しを解くと暗闇の中です。やがて室内の覆いが上がると、目に射し込む光の先に、立山につながる別世界を目前に体験することができたそうです。

このような儀式は、明治の廃仏棄釈による影響で廃止されましたが、平成八年に立山町主催による復元イベントが開催されました。以来、平成十七年、十八年、二十一年と開催され、昨年は、県内をはじめ京都、大阪などから七十名を超える女性に参加し、また三千名もの観光客が訪れています。(開催日等の問い合わせは立山町商工観光課まで)

◆アクセス
 立山ICから車で 布橋 県道六号線
 (立山街道) 約三十分



称名滝 (落差350m)

【周辺散策】
 立山博物館(まんだら遊苑、遙望館)から少し足を延ばせば、「称名滝」(日本一の落差を誇る名瀑布(ブナ坂国有林))
 また、富山地方鉄道「立山駅」からは美女平、室堂方面(ブナ坂国有林)へ行けます。



まんだら遊苑
 (餓鬼の針山から見た精霊橋)



布橋灌頂会



遙望館ホールから望む立山連峰